

平成17年第5回神岡地域協議会会議録

平成18年3月30日(木曜日)午前10時

於 神岡総合庁舎 大会議室

出席委員

石山 美恵子	工藤 正悦	今 裕子	今野 美幸
小林 厚子	斉藤 兼光	斉藤 博伸	佐藤 康晴
進藤 純雄	鈴木 和栄	鈴木 百合子	竹原 健子
竹原 勇一郎	細谷 洋造	宮原 和恵	

欠席委員

小田原 博 武藤 良仁

当局出席者

市長	栗林 次美	企画部長	佐々木 正広
総合政策課長	小松 辰巳	地域づくり課長	菅原 正悦
秘書広報課主幹	小野地 洋	総合政策課主幹	加賀 勘悦
地域づくり課主幹	藤川 祐弘		
支所長	鈴木 三郎	次長	佐藤 良幸
地域振興課長	石山 晃	地域振興課副主幹	高橋 誠
地域振興課主席主査	岩根 浩幸	地域振興課主査	進藤 稔剛

1. 開会

議事録署名委員、議長指名 9番佐藤康晴委員、10番進藤純雄委員

2. 支所長あいさつ

3. 市長あいさつ

議長

次第の４ 提案事項に入ります。提案事項の内容について宮原副会長に説明をお願いします。

宮原委員

今年度神岡地域協議会が市長に提案事項としてお願いしたいのは、「子どもの登下校時の安全確保について」であります。近年、登下校途中の児童が犯罪に巻き込まれ、尊い命を奪われる事件が相次いで発生しました。保護者は勿論、地域住民も大きな不安を抱いております。神岡地域の中心部は比較的民家が連なっており、子どもの登下校時に住民の目が止まり易いですが、周辺地域には民家のない人通りの少ない通学路を一人帰って来なければならない地区もあり、とても心配です。教育上、体力向上のため歩いて学校へ行かせたい気持ちもありますが、このようなご時世ですから、とても怖くて結局のところ迎えに行かざるを得ません。市の公用車に安全ステッカーを貼って警戒パトロールをしたり、地域でも「見守り隊ボランティア」のような動きもありますが、十分とはいえませんので、スクールバスの運行等、より突っ込んだ対策についてご検討頂けるよう、提案させていただきましたのでよろしくお願いします。

議長

市長より報告をお願いします。

市長

神岡地域協議会からのご提案にお答え申し上げます。子どもの登下校時の安全確保につきましては、市としても重要な課題と捉え、市内小中学校に対し、平成17年12月5日付けで、「児童生徒の安全対策の徹底」にて指示しております。通学路の具体的検証、一人だけの登下校を避ける、地域見守り隊等の結成、不審者情報の確かな伝達の強化に関することを通知するとともに、1月から公用車100台に「子ども安全パトロール」のステッカーを貼り、子どもたちの登下校時の安全確保に努めているところです。今後も市としまして、教育委員会の「キッズボランティア活動支援事業」の活用により神岡地域のように「子ども見守り隊」等の一層の拡大に加え、PTA、学校職員はもとより、青少年健全育成会議、防犯協会、老人クラブ等地域をあげて子どもの安全を守る活動へと発展するよう働きかけて参りたいと考えております。スクールバスに関しては、今後検討を加えていきたいと考えております。以上地域協議会から寄せられた提案事項に対する回答であります。厳しい財政環境のなか、市全体のバランスを考えながら、課題解決に向け対応して参りたいと存じますので、皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

議長

何か意見質問ございませんか。

竹原委員

私の住むところは郊外で学校から遠い地域です。田んぼの中で、のどかでいいなあと

いう気がしますが、猛吹雪になると子どもたちは飛ばされそうになりながら登下校しています。市長さんには、スクールバスについて真剣に考えて欲しいと思います。一度悪天候の時に現場視察してもらいたいと思います。

市長

これについては竹原さんの地域だけでなく全域の問題と考えます。学校という考え方というところまで対応できるかということになるようです。どういうふうに対応できるか難しい課題です。考え方が二つあり、一定のサポートをしながら、子供たちに自立支援をつけさせる必要があるという考え方と、スクールバスでぜんぶやったらという考え方があるようです。協議を重ねないと前に進めない。地域全体として子どもたちの安全をサポートするような運動として持って行かなければならないのではないかと考えます。ストレートにスクールバスとしてやっていけないという事情も理解願いたい。

進藤委員

スクールバスという観点からだけでなく、市全体のバスを含めた公用車のあり方ですが、これまで学校の授業で使われていたバスも運行できないと聞いています。市全体の運行を効率化して、一本化して事務局のような情報を取りまとめる本部といたしますか、そこから8市町村に日程やらをとりしきるような部署があれば効率的な配車というかダイヤ運行ができるのではないのでしょうか。その中にスクールバスが入ってくれば良いと思います。

市長

ご指摘のとおりで、1年やってみましたが各総合支所には様々な車両がありどうやって有効活用するか。全体の公用車の統括する部門を考えたい。車両運行計画をトータルに使うよう検討しているところです。その際は基準も作らなければなりません。白タク行為との区別をしっかりとつけたい。そうして学校行事に対応できるようにしてまいりたい。また交通弱者の足の確保もしなければなりません。大曲や中仙のようにタクシー会社と提携しているところもあるし、太田のようにバスの借上げをしているところもございませぬ。バス路線のないところについて交通手段を作っていかなければならないという視線で検討しているところです。地域の中の交通弱者に対する政策を本格的に検討しなければならぬと考え、18年度に集中してやっていかなければならないと思います。

総合政策課長

地域交通政策について申し上げます。平成14年に道路法の改正があり、路線バスについての参入撤退ができるようになりました。都会では参入、過疎地では撤退という問題が出てきました。市では赤字路線バスに約1億円近く、その他に独自交通政策に数千万円かけています。このようにしてまでも、交通空白地帯があります。これの解消と経費の削減という二面性をとらえながら効率の良い大仙市としての地域交通を18年度から考えて参りたい。子どもの登下校の安全確保の観点からのバス利用については、国からの路線バスの活用ということで通知が出ていますが、これも含めまして、全体の地

域交通システムを見直して参りたいと思います。

議長

この件についてはよろしいでしょうか。

次に「大仙市総合計画」についてです。

総合政策課長

説明

議長

質問ございませんか。なければ次第の6その他に入ります。「機構改革の概要」について説明願います。

支所長

説明

議長

質問ございませんか。

竹原委員

今の内容について早く住民に知らせてもらいたい。

支所長

広報にてお知らせします。

議長

私の方から「班編成について」お知らせしたいと思います。今までの反省から一人でなんでもやるのではなく、各分野に分かれてはどうかということで、前回の協議会で運営委員については会長に一任されておりますので、委員会を開いて決めさせていただきました。「福祉教育班」「生活環境班」「産業振興班」の三つに分けました。竹原さん、斉藤さん、細谷さんに班長をお願いしました。運営委員には今の3人と会長副会長が入りました。活動的で効率のよい協議会にしていきたいと思います。

また中学校の部活支援の件ですが、3月4日に関係者が集まりまして、今後の進め方について意見を伺いました。最初はPTAで声を上げるべきとの助言があり、それを受け、評議員会を開いたようです。PTAで全会一致ということになれば、前にも組織があったことですすんなり決まるのではないかと考えております。

次に「知事との懇談会」の報告です。

細谷委員

1月25日の知事との懇談会に出席させていただきましたので報告いたします。畜産試験場の開放ということで、入りやすく気軽に集えるようなところがあればいいなということをお願いしたのですが、畜試の性格上気軽には利用できないのかなという印象でした。またニタ子沢への通過ができるようお願いしたのですが、こちらも難しいという回答でした。ただ花見の時期などは検討してみたいとの返事をいただきました。もう一点 子どもが熱を出したような時の対応で、幼稚園保育園に看護師を置いてもらいた

いと要望しました。県内に48ヶ所あり知事からの回答で感触あったなという印象を受けました。また市長さんからも意欲的なお話を伺いました。終了後大曲の会長さんと話す機会があり、地域協議会の交流も有効に働くのではないかと思います。

議長

その他にありませんか。

今野委員

先ほどの話で地域即決予算が設けられたと聞きましたが、今年度の計画があれば伺いたいのですが。

市長

地域枠予算の考え方は、地域協議会が中心になり総合支所と一緒に500万円をいかに有効に使うか。地域みなさんと事業を探していただきたいと思います。事業としてはソフトを想定しています。地域によっては、花いっぱいとかクリーンアップ事業の拡大や道普請などがあるようです。

支所長

具体的には決まっておりません。皆様と一緒に考えていきたいと思っています。少しテコ入れすれば発展につながるようなソフトを考えていますが、アイデアを出していただき次回相談したいと思います。

議長

質問が無ければ、これで終了したいと思います。ご苦勞様でした。

4. 閉会